

第6学年3組 国語科学習指導案

平成25年 11月7日(木) 第5校時
場 所 6年3組 教室
授業者 教諭 阿部 渉
在籍児童数 男子13名女子14名計27名

- 1 単元名 作品の世界を深く味わおう
教材名 「やまなし」「イーハトーヴの夢」

2 本単元の意図

(1) 児童の実態

本学級の児童は、落ち着いて授業に臨み、しっかりと課題に取り組んでいる。読書が好きな児童も多く、ふみくら(図書室)からほとんどの児童が本を借りて朝の読書の時間や、休み時間を楽しく読んでいる。そのため、ほとんどの児童が、文章の内容を的確に押さえ要旨をとらえたり、事実と筆者の意見とを区別してとらえたりすることができる。一方で、登場人物の関係や心情、場面の描写などから自分の考えを持ち、そこから意見を練り上げたり、深め合ったりしていくことが苦手な児童が多い。さらに、発表になると言いたいことを整理することができず、思ったことをしっかり伝えることができないこともある。

そこで今回は、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写、優れた叙述からしっかりと自分の考えを持ち、さらに意見を練り上げたり、深め合ったりしていく力を生み出すことができる授業づくりを心掛けたい。

(2) 育成する言語能力

本単元で育てたい言語能力は、指導事項「イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。」「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」である。そこで、文学作品の優れた情景描写に着目したり、作者の人生と重ね合わせたりして、作品や作者の魅力を探るという視点を持ち、様々な作品を読み比べていく活動を取り入れた。また、友だちとの読みの交流を通して、考えを深めたり、広げたりしながらいろいろな文学作品を紹介する言語活動を設定した。

(3) 教材観

本単元では、「作品の世界を深く味わう」「伝記を読む」ことをねらいとしている。児童は、「カレライス」の学習で、登場人物に自分を重ね合わせてその言動や心情を読んだり、人物相互の関係から登場人物の心情をとらえたりすることを経験しているが、今回はさらに、題名、構成、表現、言葉の使い方から、作者の思いを推測して考えたり、作者の伝記やほかの作品と重ねながら読んだりすることを想定している。

本教材は、宮沢賢治の物語「やまなし」と資料として添えられた宮沢賢治の伝記「イーハトーヴの夢」からなっている。

「やまなし」は、2枚の幻灯の世界を対比させて描くことで、「生と死」「光と影」「動と静」を印象的に表わしている作品である。かのに親子の会話から賢治の死に対する思い、生きることの大切さなどを感じることができる。資料「イーハトーヴの夢」では、作者の生き方や考え方に触れ、読み進めることで「やまなし」で出会った賢治の世界観をより味わうことができるようになっている。学習経験をもとに視点を持って賢治のほかの作品に読み広げ、賢治の生き方や考え方により深く触れ、作者と作品を深く知るということを経験させるようにしたい。

また、賢治独特のリズム感やオノマトペ、比喩表現などが多く用いられ、それが他の文学作品には見られない魅力となっている。これまでの学習での文学教材を想起させながら、「やまなし」の宮沢賢治世界をしみじみと読み味わわせたい。

3 研究主題とのかかわり

(1) 研究主題

自ら課題を見つけ、主体的に学ぶ太陽の子の育成
～基礎・基本の定着を図り、表現力を高める国語指導の工夫・改善～

(2) 研究主題とのかかわり

国語を**正確に理解し**、
適切に表現する能力を育成することで、
伝え合う力を高める。

←基礎・基本の定着
←基礎・基本の定着
←表現力を高める。
参考【学習指導要領解説国語編】

「国語を**正確に理解**」には、
国語の使い方を正確に理解する能力
国語で表現された内容や事柄を正確に理
解する能力

「**適切に表現する**」には、
国語を適切に使う能力
国語を使って内容や事柄を適切に表現す
る能力

(3) 研究の内容

「国語を正確に理解し、適切に表現する」（国語科の基礎・基本）高めるため、
授業の1ないし2単位時間を**前段**と**後段**に分け、それぞれを「**国語を正確に理解する**」と「**国語を適切に表現する**」の時間と考える。

授 業 1 単位時間（45 分）または連続する 2 単位時間 ※必ずしも同一日である必要はない	
前 段 「国語を 正確に理解する 」時間	後 段 「国語を 適切に表現する 」時間

4 単元の目標

- (1) 物語の情景や言葉の使い方に興味を持ったり、作者の考え方や生き方を知ったりしようとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 作品の特徴や作者の思いをとらえ、自分の考えをまとめることができる。(読むこと)
- (3) 複数の本や文章を比べて読み、効果的な読み方を工夫することができる。(読むこと)
- (4) 造語の楽しさ、効果的な比喩表現や、擬声語・擬態語、美しいリズムなど、語感や言葉の使い方に気付き、関心を持とうとする。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読むこと	オ 言語についての知識・理解・技能
「『やまなし』『イーハトーヴの夢』を読み、他の宮沢賢治作品を推薦するポップを書く」という言語活動を通じた指導。 ・学習指導要領との関連 「C 読むこと」の言語活動例 エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。		
①物語の情景や言葉の使い方に興味を持ち、作者の考え方や生き方を知ろうとしている。 ②作品の内容をポップで伝えようと意識を持っている。	①場面の様子をとらえて、優れた叙述に気が付いている ②複数の本や文章を比べて読んで、作者のものの見方や考え方について考えている。 ③本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを深めている。	①物語の構成について理解している。 ②物語を読んで、語感や言葉の使い方に対する感覚について関心を持っている。 ③比喩などの表現上の特色について意識している。

6 指導と評価の計画（全8時間扱い）

次	時	主な学習活動	学習内容	学習活動に即した評価規準と評価方法
一次	1	○「やまなし」の全文を音読し、初発の感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の読み方 ・感想に書くこと ・登場人物像 ・心に残ったこと ・疑問に思ったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○宮沢賢治の作品を進んで読み広げようとしている。 ア-① 観察 ○初発の感想を書いて、交流している。 ア-① 観察・ノート
	2	○『イーハトーヴの夢』を読み、宮沢賢治の生き方や考え方のもとになった出来事、作品が誕生した背景などを年表にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・賢治の理想 ・賢治の生き方 ・賢治の考え方 ・『やまなし』との関連 	<ul style="list-style-type: none"> ○『イーハトーヴの夢』を読んで、宮沢賢治の生き方に関心を持ち、年表を作ろうとしている。 ア-① 観察・ワークシート
	3	○前時で読み取った宮沢賢治の生き方や考え方を重ねてもう一度『やまなし』を読み、気付いたことをノートにまとめ、全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・重ねて読むことによって気付くこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○重ね読みをして、作品の特徴や作者の意図をとらえている。 エ-③ 発言・ワークシート
	4	○学習計画を立てる。 ※並行読書開始	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴール ・学習計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品の内容をポップで伝えよう意識を持っている。 ア-② 発言・ワークシート
二次	5	○「登場人物の関係」をテーマに「やまなし」のポップを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ポップの構成・書き方 ・登場人物から賢治らしさが表れている部分 	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物に視点をあてて、自分の考えと作者のものの見方や考え方を重ね合わせている。 エ-①②③ 発言・ワークシート
	⑥ 本時	○「情景描写」をテーマに「やまなし」のポップを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ポップの構成・書き方 ・情景描写から賢治らしさが表れている部分 ・擬声語擬態語 ・比喩表現 	<ul style="list-style-type: none"> ○情景描写に視点をあてて、自分の考えと作者のものの見方や考え方を重ね合わせている。 エ-①②③ 発言・ワークシート
三次	7	○並行読書してきた本の中からお気に入りの一冊について、作者と作品を重ねて、ポップを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・作品のよさが表れている場面 ・作品と作者の重なり 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品と作者の重なり、作品のよさが表れている場面ポップで伝えようとしている。 ア-② 発言・ポップ
	8	○お気に入りの一冊の発表会をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・作品と賢治を重ねて読んで思うことを取り入れたポップの紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ○作者の生き方や考え方を知ったことで、より深く作品を味わっている。 エ-③ 発言・ポップ

7 本時の学習指導 (6/8 時)

(1) 本時の目標

○情景描写と作者の思いをとらえて、発表し合い、自分の考えをまとめることができる。

(読むこと)

(2) 本時の学習活動

前 段 「国語を正確に理解する」	「やまなし」の情景描写と作者の思いをとらえる。
後 段 「国語を適切に表現する」	自分の考えを発表しグループ内で交流してポップを書く。

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導・支援 (○) と評価 (◇) の創意工夫	時間
1 本時の学習課題を確認する。	・学習の進め方の確認	○本時は、『やまなし』の情景描写を読み取り、賢治らしさが表れている部分をポップに表すことを確認する。	2
	賢治らしさが表れている情景描写を読み取り、ポップを書こう。		
2 学習課題に対する自分の考えを持つ。	・情景描写から賢治らしさが表れている部分 ・擬声語擬態語 ・比喩表現	○情景描写の中から「自分の好きなところ」「好きな理由」「賢治らしさ」書かせる。 ○なかなか書き出せない児童には、重ね読みをしたときに感じたことを振り返らせる。 ◇情景描写に視点をあてて、自分の考えと作者のものの見方や考え方を重ね合わせている。 【ワークシート】	12
	<p>〈予想される児童の反応〉</p> <p>○情景描写から賢治らしさが表れている部分</p> <p>C 自分の好きなところ：「かぶかぶ」というところ 「トブン」という表現 「金剛石の粉をはいているよう」という書き方</p> <p>C 賢治らしさ：他の人が考えないような表現の仕方 不思議で独特な言い回し 読み手に答えを考えさせる書き方</p>		
3 グループ内で自分の考えを交流する。	・自分の考えの発表 ・グループ内での考えの交流	○友だちの考えを聞いて、自分の考えが変わっても良いし、そのままでも良いことを伝える。 ○友だちの考えを聞くことによって、自分では思わなかった考えを発見させたり、感じさせたりする。 ◇考えたことを発表し合い、自分の考えを深めている。 【発言・ワークシート】	10

4 自分の考えを全体で発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考え ・交流して気づいたこと 	○交流して気づいたことを含め、自分の考えを発表し全体で交流する。	8
5 ポップを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ポップの作成 	○ポイントになる3つの文をポップに書く言葉づかいに変えて書くことを伝える。	8
6 本時の振り返りをし、次時の学習の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返り ・次時の学習内容 	○他の宮沢賢治作品の中から、おすすめの本を選びポップを書くことを確認する。	5

(4) 板書計画

ポップ
の例

ポップ
の例

- ・好きなところ
- ・賢治らしさ

やまなし
イーハトーヴの夢

賢治らしさが表れている情景描写を読み取り、ポップを書こう。

③ 賢治らしさ

② 好きな理由

① 自分の好きなところ

・ポイントになる三つの文

テーマ

情景描写